

うずしお プログラム

南木曾木材産業株式会社 代表取締役

柴原薫さん

「世界で一番安い日本の杉の木」

ご存知ですか？

1960年に木材が自由化されて関税がゼロの外材が輸入され、国産材は駆逐され、今も8割が輸入されています。

鹿児島大学農学部・遠藤日雄先生に、そんなに安いのになぜこんなに山から木材が搬出されるのですか？と聞きました。

それは、山に見切りをつけた不在地主が、値段はいくらでもいいからと、伐倒処分を業者に依頼してるからです。「不在地主」とは、山を所有しているが、山を離れ都会に移り住んだ人のことです。

20年前に、500万円の価値があった山林も、今の価値では、10万円の価値しかない、ほやきます。山林を所有していると、毎年少し固定資産税と相続の際の相続税がかかります。その10万円という現金を得るために、伐倒し、売却する人も増えていきます。「山に見切りをつけた」とは、まさに、こういうことなのです。伐倒された後のハゲ山に100万円かけて植林する人はごくわずかです。

「伐倒・伐倒……そして、その間伐材を使うことこそ循環型社会になる」わが国で、植林し人工林づくりが始まったのはおよそ500年前と聞きます。江戸時代の終わりには、その技術は高いものになっていたようですが、戦後、大規模一斉造林で、スギ・ヒノキ・カラマツといった成長の早い使い勝手のよい針葉樹を全国に植えてしまいました。その間、一度も手入れされない間伐手遅れ林が全国にたくさんあります。

「森林の国「日本」」

●国土3765万ha——森林2408万ha 森林率 67% (世界で2番目)

年間木材消費量 1億立方/年間木材成長量 8,000立方
すなわち、自国で8割の自給率ができるということです。

【森林率】フィンランド 72% ブラジル 64% 韓国 63%
インドネシア 58% ロシア 50% ドイツ 31% カナダ 27%
アメリカ 25% 中国 18%

資料提供 アジア航測株式会社 林野庁 森林・林業白書

「静岡大学農学部 1986年マウス実験」

ハツカネズミ60匹を使い、ヒノキ製木箱、コンクリート製箱、亜鉛鉄筋板箱に入れ、成長状態、生存率、生殖器の発達状態を観察・実験したものです。

生後23日間の仔の生存率は、木製箱では85.1%に対して金属製箱では41%、コンクリート製箱では69%と、木製箱の生存率が圧倒的に高い。しかも、興味深いのは、出産後仔ネズミが23日までに達する飼育状態を見ると、コンクリート製箱では、仔ネズミはあちこちに散乱しており、母親は仔ネズミの世話をする気がまったくなく、中には、弱った仔を食い殺す母親さえいたという。その点、木製の箱では、母親は自分の産んだ仔を要領よくまとめて、哺乳させ、仔に対する気配りもよく順調に育ったという。木箱での生存率が高いのは、体から奪われる熱の量が少ないかららしい。

(しばはらかおる)

1960年長野県南木曾町大山生まれ、南木曾町林業研究クラブ会長、船井幸雄主催「船井塾」三期生。南木曾木材産業株式会社代表取締役社長 座右の銘「守・破・離」本物人とは、言っていることとやっていることが一致している人と思って目指していますが、…まだまだです！
<http://www.nagiso.co.jp>

※芝 静代(しばしずよ)

首都大学工学部建築工学科卒業。静水舎(せいすいしや)一級建築士事務所主宰。特定非営利活動法人「緑の家」理事長。

<http://seisuisha.hp.infoseek.co.jp/>



その森は、暗く密林であり、根が浅く雨による侵食が心配されています。木を伐ることが森林破壊に繋がると考えている人が今だにいますが、日本の森は、伐倒・伐倒を続けると、崩壊寸前なのです。その間伐材を放置すると20年から30年で土に帰ります。但しCO₂は、その間伐材を出されると考えられます。私はその間伐材をどんどん利用して、夢を持っています。

今年3月に、間伐ひのき6メートル分材を木曾の山から2日かけて父と伯父と私の3人で18本担ぎ出し、千葉県市川市にある「風の谷保育園」に使わせていただきました。

当日うずしお会場では、その保育園の設計担当の芝静代(※)設計士にオール国産材でボンドや釘を使わない素晴らしい家を、解説いただきます。あなたは木造とは何だとおもいますか？昔には帰れないけど、サザエさんの家の間取りや、やれば出来るオール国産材住宅を是非知ってください。